



支部長就任にあたり

村上 一宏

平成二十二年支部定期総会において支部長に任命していただきました村上一宏です。六十年に及ぶ歴史ある三多摩支部の支部長という大役を仰せつかることになり、その責任の重さ、日を追うごとに痛感している次第です。

最初に、異例のスピードを要する短い期間で支部長候補を選考し、さらには定期総会までにまとめ上げた選考委員会メンバーの方々、本当にお疲れさまでした。そしてこの新米支部長を掲げて定期総会を乗り切った総会実行委員会の方々には心よりお礼を申し上げます。

ここ数年われわれの置かれている印刷業界も大きな変革期を迎え、あらゆる業界から予測のできない技術が登場しています。業界内での品質、価格、サービスという今までの競争ばかりでは生き残れない、思わぬところからわれわれのマーケットに目

を光らせている現実をしつかりと受け止める必要があります。

わたくしが学生の頃、一九八八年米国発金融ビッグバンを現地で、肌で感じることできた経験がございました。凄まじい変革スピードで多くの銀行、証券会社、保険会社が倒産に追い込まれました。毎日が驚きばかりで、この先どうなっていくのかまったく予想がつかない状況でした。われわれ印刷業界も、印刷ビジュアルでも言いましょうか、いよいよ本格的に変革が始まったのではないかと感じます。

印刷市場の将来性、技術の革新性、他業界との連動性、どれを考えても果たしてこの先光は見えてくるのかどうか。大きな不安を感じている中、誰もがその光を切望しているのではないのでしょうか。市場性の高い他業界に移るわけにもいかない、新興国に新天地を求めるわけにもい

ない、このまま指をくわえて待つているわけにもいきません。

三多摩というエリアは非常に広い。ため各組合員の仕事の流れ・仕組みが分かりにくいのが現状です。逆を返せば、そのために各組合員の得意とする分野・考え方・方向性はさまざま、それらを明確に共有化することにより新たな力が生まれるのではないかと思えます。プロジェクトごとにチーム編成が変わるように、支部内各組合員のさまざまな組合せにより大きな仕事・新しい仕事が生み出せるような仕組みを創ってほしい。多くの可能性が生み出せると確信します。誰が何をできるのか、をもう一度再確認していくことがわれわれ支部のひとつの大きな役割ではないかと思えます。

そのためにやらなければならない事は、仲間の「理解と親睦」を深める以外に方法はありません。三多摩

支部は各役員、委員会組織がしっかりと機能しているため、このシステムの更なる連動性と精度向上を目指し、支部はもとより業界の発展に尽力できる組合活動にしていきたいと思えます。冒頭にもありましたが今年には三多摩支部創立六十周年という大きなイベントが待ち構えております。これは根本前支部長の描いた大きなプロジェクトです。支部長2代に渡りこの夢を実現できることを喜び、是非とも大きな成功に結びつきたいと思えます。組合員皆様のご健勝と社業の発展を祈念して・・・と締めくくるべきなのでしょうが、大きなイベントを成功させる事に全組合員力を合わせ、九月四日の成功の暁には皆で祝杯を交わしたいと願っております。

最後になりましたが「さらなる変革」を求め、大きな不安を感じながらも若輩者を支部長に選考、この博打とも言える大きな決断に踏み切った全支部員の気持ちと期待に答えられるよう全力でがんばっていく所存でございます。

何卒よろしく、お願い申し上げます。